

2013年度第1四半期決算説明会における質疑応答

日 時: 2013年7月31日(水) 18:00~18:45
場 所: NEC本社ビル B1F(多目的ホール)
説明者: 取締役 執行役員 兼 CFO 川島 勇

質問者A

Q 第1四半期は会社計画に対して想定線とのことでしたが、セグメント毎の増減などがあれば教えてください。また、携帯端末事業については、業績への影響を精査中とのことでしたが、追加費用の発生などにより、通期の会社計画を変えなくても良いのでしょうか。

A 会社計画と比べると、営業損益では各セグメントとも大きくは振れていません。携帯端末事業の追加費用などはこれから精査していきます。なお、NECモバイリングの株式売却益約160億円を特別利益に計上しており、それも踏まえて影響を見極めていきます。

Q 携帯端末事業は、当初、最終的にどういう姿を求めていたのでしょうか。今日発表した内容に至ったプロセスを教えてください。この結果は、ベストなものなのでしょうか。

A 基本的には、競争力強化に向けてパートナーリングを検討してきましたが、社会ソリューション事業へと当社がシフトしていく中で、総合的に勘案したベストの答えと考えています。

Q 携帯端末事業の技術を他社に活用してもらうよりも、事業を終息する方が利益を最大化できるのでしょうか。

A 検討の内容、プロセスについてはお話しできませんが、総合的に勘案すると我々としては良かったということです。

質問者B

Q 第1四半期の実績について、各セグメントに共通して先行投資によりコストが増えたとの説明でしたが、すべて前向きな費用増による減益なのでしょうか。外部環境の影響や不採算案件の発生などその他のコスト増要因について確認させてください。

A 先行投資は会社計画と比べて増えたということではありません。今年度は「2015中期経営計画」のスタートの年であり、SDNやTOMSなどの開発費を増やしている状況です。外部環境については、パブリック、エンタープライズは前年同期並みで、テレコムキャリア、システムプラットフォームは前年同期以下でした。特に国内通信事業者の投資が前年同期と比較すると減少しました。不採算案件は特別多く出ている状況ではなく、前年同期並みとなりました。

Q スマートフォン関連では、今回の計画により従業員が他部門に配置転換となり、NEC埼玉は従来型携帯電話機の製造が中心となりますが、工場設備などで大きく特別損失を計上することはあるのでしょうか。

A 工場設備に関して言えば、NEC埼玉は今後も活用していきます。NECカシオモバイルコミュニケーションズの固定資産も昨年度末に減損処理をしており、大きく発生することはないと考えています。スマートフォンの新規開発を中止したことの影響をこれから精査していきます。

Q 消去・配賦不能が減少していますが、会計上の要因などによる改善があるのでしょうか。

A 前年同期比で37億円改善していますが、会計上の要因ではありません。費用のずれもあるかもしれませんが、全社として費用削減活動を行っている結果と考えています。

質問者C

Q 先行投資について、全社の研究開発費は、昨年度実績1,517億円に対して、今年度計画は1,600億円ですが、第1四半期ではどのような状況ですか。

A 第1四半期では、全社として数十億円増えています。

Q 第1四半期にはNECモバイルリングの業績は含まれていますか。NECカシオモバイルコミュニケーションズの損益が30億円悪化したとのことでしたが、損失額はどれぐらいでしたか。また、従来型携帯電話機に絞った場合、第2四半期以降の損益はどのようになりますか。

A 第1四半期の実績にNECモバイルリングは連結されています。また、第1四半期においてNECカシオモバイルコミュニケーションズは約90億円の赤字でした。第2四半期以降は、ある程度の収益性は見込めると考えていますが、今回の影響を見極めていきます。

Q 通信事業者から商売のやり方を変えることへの理解は得ているのでしょうか。

A お客さまとは既に大きな方向性について話をしていますが、具体的なことはこれからになります。

Q 年間の業績予想を変えていませんが、今回の影響を精査したうえで期初計画を守っていくという理解で良いでしょうか。

A これからの精査になるので断定的なことは言えませんが、方向感としては期初計画の達成に向けて頑張っていきたいと考えています。

質問者D

- Q スマートフォン関連について、今後のスケジュールはどうなりますか。従来型携帯電話機と保守のみとなるのはいつからですか。また、今回の決定によって、NECカシオモバイルコミュニケーションズにある多額の欠損金が税務上活用できることになるのでしょうか。人員については、NEC埼玉において希望があれば早期退職のような制度は検討するのでしょうか。その他リスクとして考えるべきことがあれば教えてください。
- A スマートフォンの開発は中止しますが、従来型携帯電話機と保守のみとなるスケジュールなどはこれから決めなければいけないものです。断定的なことは言えませんが、多少時間がかかるのではないかと思います。欠損金については、NECカシオモバイルコミュニケーションズが引き続き保守を行うので、すぐに使える状況にはなりません。従業員については、グループ内での異動を考えており、早期退職は考えていません。また、NEC埼玉そのものは特に大きな損が出るということにはならないと考えています。NEC埼玉はNEC全体として活用していきます。
- Q NECカシオモバイルコミュニケーションズという組織で、保守事業を継続する必然性はありますか。
- A NECカシオモバイルコミュニケーションズは現在、携帯端末事業を行っており、保守の部分は販売の延長線として実行していくこととなります。
- Q 第1四半期の実績は増収だが利益が横ばいというセグメントが多くあります。先行投資負担という説明でしたが、年間では増収により増益という計画となっています。第1四半期は先行投資が重いのでしょうか。
- A パブリック、エンタープライズの第1四半期の営業利益は、先行投資を含めて前年同期並みです。年間ではパブリックが下期に前年度比で売上増となり利益に貢献します。第1四半期の先行投資が過大ということではなく、年度末に近づくとつれて売上が増えて利益が増える状況にあります。テレコムキャリアは先行投資を少し早めに実行しています。売上減については、下期はもう少しならかになります。国内の設備投資が減る中で、サービスを増やすものの前年度比では減益となります。
- Q 第1四半期の受注は前年同期、会社計画と比べてどのような伸びになったのでしょうか。
- A IT系の領域の受注が5~6%の増となりましたが、テレコムキャリアは前年同期比でマイナスとなりました。会社計画に対しては概ね想定線でした。

質問者E

- Q スマートフォンを続けてきた理由は、企業システムと融合してユビキタスなソリューションを提供できるということだったと思います。市場環境や他社の状況を見ていると、スマートフォンやタブレットの企業への導入が進んでいますが、ここで開発を止めることが良いのでしょうか。今後、スマートフォン、タブレットはどのように供給していくのでしょうか。
- A タブレットは今後も継続していきます。ソリューションの一部としてタブレットが入ってくるので、スマートフォンの開発中止が、タブレット事業に対してネガティブな影響を与えるとは思っていません。タブレットは、システムプラットフォーム事業が対応していきます。NECカシオモバイルコミュニケーションズの人材を関係部門へ異動する中で再配置をしていきます。

以上